



発行:認定NPO法人 日本セラピューティック・ケア協会 発行者:秋吉美千代 印刷:ビーグ有限会社

すべての人々に尊厳と幸せを

理事長 秋吉 美千代

福岡県の認定NPO法人となってから2年目を迎めました。私が英国赤十字社に学び、日本での普及を託されて福岡から発信を始めて18年が経った今、活動の領域は本国イギリスを超えて、子育て支援からターミナルまで広がり、非言語コミュニケーションを用いた心のケアの一つとして、さまざまな場面で展開されるまでになりました。

前号でご紹介した「施設セラピスト」の導入により、施設をあげてセラピューティック・ケアに取り組まれるところも増え、専門職が現場で提供するために修得される割合が年々高くなっています。医療介護の現場でセラピューティック・ケアの持つ可能性を評価していただけていることを、大変嬉しく感じています。

しかしながら、これまでも、これからも、協会の活動の最も大きな柱はボランティア活動です。全国に広がりつつある現在だからこそ、協会の原点をいま一度、心に刻みたいと思い、今号では協会のボランティア活動を特集に取り上げました。

現場で出会う「エモーショナル・ヒット」=クライアントの方々との心温まる瞬間に出会えるのは、ボランティア活動の時です。“良いお顔”に出会うことこそ、セラピューティック・ケアを届ける喜びだと言えます。そのためにも、ボランティアの質の維持向上は協会が常に取り組んでいくべき課題だと捉えています。

取り組みの一つとして、昨年はボランティア活動を行うまでの心得や注意事項を記した「ボランティア手帳」を作成し、協会全会員に配布しました。

今年度は、ボランティア活動をする上で困ったことや疑問点などについて会員に尋ねたアンケートの集計結果をもとに、研修を通じて課題を解決していくことを計画しています。具体的には、専門職を招いてお話をいただきたり、ロールプレイング形式で確認したりといったことを行なっていきます。また緩和ケア病棟や認知症ケア長期療養型病院への訪問ボランティアの教育にも力を入れていきます。

「すべての人々に尊厳と幸せを」という協会理念の実現に向けて、笑顔に会える日々の活動を楽しみながら、一歩一步、共に前に進んでいきたいと思っています。



広がるボランティア活動の輪

デイサービス・デイケア・有料老人ホームなどの老人福祉施設、病院(緩和ケア病棟)・ホスピス等をボランティアが定期的に訪問し、セラピューティック・ケアをお届けしています。

協会がスタートしたばかりの平成18年度は、活動場所が福岡県内の10か所の施設のみ、活動者が年間のべ792人(施術対象者数は不明)だったのに対し、平成27年度は活動先が北海道から大分まで全国81か所、ボランティア活動者は年間のべ2,529人、施術対象者数は年間のべ12,653人と、10年間で大きく伸びました。

入居者さま・利用者さまが楽しみに待ってくださっているほか、継続的にケアをお届けすることで認知症による問題行動が改善されたり、足の浮腫が軽減されたり、夜間起きる回数が減るなど、現場で効果を上げている事例もたくさんご報告いただいている。緩和ケア病棟やホスピスでは、訪問ボランティア時にご家族にも施術し、心身のケアを行っています。

全国の会員からの声が集まりました

● 施術が終わった後、涙を流された時は、手のぬくもりが伝わったと感じました。



● 私にとってすべてが新鮮で、人が生きていく上での原点を考える時間であるかのようです。

● 「いつも楽しみにしてるよ」「気持ちいいね」「眠くなるね、ありがとう」と言葉を頂き励みになります。

● ありがとうございましたと言われたり、眠りにつく方がいらしたりで、施術する方も優しい気持ちになります。



● もっと強くと仰られますか 続けている間に、手のぬくもりがホッとすると言われる事が多々あります。

● 脳障害で寝たきりの女性、病室に顔を出すとっこりして待っていてくれます。彼女の笑顔が私を元気にしてくれます。



● 手と手のふれあい、手のぬくもりが人の表情も変えてくれることに感動しました。

●ボランティアスタッフから

「デイサービス徒然」に伺うようになって9年目となりました。いつも快く迎えてくださいます。

施術に入る前に利用者さんの身体の状況を教えてくださいます。そして終了後には、「気になる方はいませんでしたか?」と尋ねてくださいますので、私たちが対応した時の身体のこと、心の変化など気づいたところをお伝えしています。長年続けられているのが、クライアントと施術者との関係だけではなく、このような交流があるからこそだと感謝しています。

福岡本部 講師 水上 尚子



●施設から

人と人との関わりが少なくなってきた利⽤者さんにとって、マンツーマンでのお話と肌の触れ合いはとっても嬉しい事だと思います。認知症ケアの基本とも言われており、いつも皆様に安心感を与えて下さいます。

さらに、セラピューティック・ケアをして頂く事によって、利用者の心身状況を知るきっかけの一つにもなり、利用者とどう関わっていくか等、我々スタッフにも大変勉強になっております。

利用者の「気持ちよか～」の言葉で徒然に元気と幸せパワーが満ち溢れているのも事実です。

デイサービス徒然 大浦

本部

南三陸町の仮設住宅にボランティアに伺いました

報告:事務局 樋口

南三陸町では今も人口の約4分の1に当たる3,283人が仮設住宅で生活されており、孤独死が大きな問題となっています。

このたび、福岡・佐賀の小中学校の福祉体験授業で教材として使用している「つなみのえほん」の作者・工藤真弓さんとのご縁から、南三陸町の仮設住宅への訪問を実現することができました。工藤さんは「復興みなさん会」のお一人として南三陸町の被災者を支援しておられ、今回のボランティア受け入れにもお力添えをいただきました。

当日は、福岡・佐賀・静岡・埼玉・北海道・福島・仙台からかけつけた会員13名が現地のお世話役の方々とともに、南三陸町立戸倉中学校仮設住宅と南三陸町立 志津川中学校仮設住宅の「お茶っ子会」を訪問、セラピューティック・ケアをお届けしました。

ケアのあとは、太宰府から持参した梅ヶ枝餅や、会員が持ち寄った各地のお菓子、お茶を囲んでのお茶っ子会。美味しいお菓子を前に声が弾み、最年長の92歳のおばあちゃんがすっかりご機嫌になり、歌まで歌いだされる一幕も。



実は今回の訪問にあたり、「松屋」(太宰府市)さんから梅ヶ枝餅50個を購入したのですが、本来は月1回の限定発売の梅ヶ枝餅を特別に作ってくださったり、ひと箱ひと箱に手書きの応援メッセージや絵手紙を添えてくださったりと、とても温かく対応していただきました。また太宰府天満宮 櫛宜の味酒 安則さまにも、貴重なお神酒(梅酒)を無償で6本ご提供いただきました。

今回は、お一人おひとりに時間をかけて施術し、じっくりとお話を聞き、心に寄り添うことができました。両手のぬくもりを通じて短時間で心を開いていただけるセラピューティック・ケアの力を、入居者の皆さんのお顔で実感した訪問でもありました。

仮設住宅での孤独死の問題は、入居者の高齢化とともに今後さらに大きくなると言われています。「最近は慰問の人がほとんど来てくれないから寂しい」というお声もたくさん耳にしました。心のケアには、今後も継続して取り組んでいく必要があると感じています。今回の訪問で生まれたご縁を大切に、今後も支援を続けていきたいと思っています。

静岡

浜松で初めての 入門講座開催

小澤 由美子(静岡支部 講師)



通信講座受講から約5年。この間、インストラクターとして、介護老人保健施設を始め様々なところで施術する機会をいただき、対人援助に重要な役割を果たすと実感、地域に伝えたいと思うようになりました。そこで、長年勤めた総合病院の看護管理者の方々にもケアを体験していただき「やっぱり人の手が一番だね」と声を掛け合う姿を見て、嬉しさをかみしめました。

その後も「父が元気なうちにやってあげたかった」「もっと早く知りたかった」などの声に心を動かされ、昨年9月27日(日)浜松市では初めて入門講座を開催し、23名の受講者をお迎えきました。秋吉先生ご支援の下、静岡支部講師と浜松のインストラクターの計7名が担当し、「早速家でやってみたい」「来て良かった」などの感想をいただき、明るい展望を感じる一日となりました。

高知

「古民家がんサロン 友遊館」での交流

塩見 千代子
(高知支部 インストラクター)



「友遊館」には月1~2回、患者さん、サバイバーさん、ご家族、ご遺族の方が集まります。病気や趣味の事、つらかった事や嬉しかった事、様々な話題で話が弾みます。ご遺族の一人に料理が大好き、という方がいて毎回美味しい昼食を作って下さるので、皆さん楽しみに参加されます。また、高知大学医学部の学生さんが毎年見学実習に来られるので、患者や家族の立場から医師に期待することを聞いて頂いています。

毎回施術を楽しみにしてくれる方もいて、施術中に気持ちよくコクリコクリしてくれると嬉しくなります。不眠症の方も、施術を受けた夜は良く眠れるそうです。セラピューティック・ケアを提供する機会を頂き感謝しています。

本部

平成27年度 福岡県男性の 子育て応援事業費補助金事業 イクメン講座 「"家族力"UP講座」



福岡県の子育て応援事業の一環として、ママの心をしっかりと受け止めるコミュニケーション法を学んで子育てをもっと楽しめるようになることを目指すパパ&プレパパのための講座を5回に分けて開催。

第3回「寝かしつけの達人になる!」ではゲスト講師に社会福祉法人 若楠・若楠児童発達センター長の橋本武夫先生をお招きし、父親の役割や心構え、ふれあいの大切さをお話しいただきました。

受講者は毎回お仕事後のご参加でしたが、時おり大きな笑い声も起きる、楽しい講座となりました。なお実施に際しては、デイサービスぶどうの樹さまに、会場のご提供をはじめ全面的にお力添えをいただきました。

連載

各地区たより ~埼玉支部~

日本全国にいる会員のみなさんの活動や思いを知り、会員同士のつながりを感じるための連載企画です。

セラピューティック・ケアの知名度向上につながりました

2015年12月5・6日、埼玉県春日部市駅から5分のところで開催された『ぽぽらフェスティバル』に参加しました。市民活動センター主催のこのイベントは4年目です。私たちのブースには約60名の方が体験にいらして下さいました。ちょうど12月1日発行の季刊誌「ぽぽらだより」の団体インタビュー欄に私たちの活動が紹介されたばかりでもあり、地域での『セラピューティック・ケア』の知名度向上となり



埼玉支部 緒方 美鈴

ました。同じフロアで同じようなハンドケアグループの施術を受けてきた方が、「同じかと思ったけど、全然違うね。こっちのケアは、手の温かさがジワ～っと来てとってもリラックスできる」と感想を頂きました。秋吉理事長の手技に少しでも近づきたいと皆で毎月練習を重ねている成果だと嬉しく思いました。そしてスキルアップの大切さを実感した2日間でした。

通信教育受講生レポート -レポート10-

日総研セラピストコースを受講・修了し、インストラクターの資格を得るために、施設で実習後提出されたレポートです。



M.Nさん(九州)

セラピューティック・ケアで私が感じるのは上質なケアだということです。西洋と東洋医学を織り交ぜて、科学的根拠に裏付けられ、優雅さを兼ね備えている。認知症・ターミナルケアは傾聴と相手に寄り添うことを幾度も繰り返しますが、やはり言葉だけの消極的なケアには限界があると感じます。

エフルラージュとニーディングの手技により身体の緊張を解き循環を改善させホメオシターシスにも好影響をもたらす、まさに治療力のあるケアであるセラピューティック・ケアこそが、これからの中高齢化社会・複雑な世の流れに必要なケアだと思います。私の勤務するハンセン施設の入所者にケアを施術し、再度声かけして断られたことは、一度もありません。

嬉しそうに頷いて心地良かったと話され、ウトウトする方もいます。

高齢化を迎えて、今後の人生の中でホッとするひとときと、薬だけではどうにもならないプチ不快症状を改善できると考えます。

【症例】Sさん(女性)

入園者の方には週に1回施術しています。首や肩こりが取れる、足が軽くなったという感想が共通して聞かれます。今後は呼吸法やリズムを意識して、より良い施術が出来るよう努力していきたいと思います。

当協会へのご寄附は税控除の対象となります。

1. 個人によるご寄附の場合

所得税の算定において特定寄附金とみなされ、寄附金控除の対象となります。所得控除もしくは税額控除のいずれか、メリットが大きい方を選ぶことができます。

①税額控除:(寄附金額合計-2,000円)×40%が所得税から控除されます。

②所得控除:寄附金額合計-2,000円が所得から控除されます。

※控除を受けるためには、所轄税務署にて確定申告を行なってください。

2. 法人によるご寄附の場合

一般寄附の損金算入限度額とは別に、特定公益増進法人に対する寄附金の額と合わせて、特別損金算入限度額の範囲内で損金算入が認められます。

※損金算入するためには、寄附金査収日を含む事業年度の税務申告書提出の際、当協会の発行する所定の領収書を添付し、申告書をご提出ください。

3. 相続人等による相続財産等のご寄附の場合

取得した財産を相続税の申告期限までに当協会に寄附された場合、寄附した財産の価額は相続税の課税価格の計算の基礎に算入されません。

※控除を受けるためには、相続税の申告書提出の際、当協会の発行する所定の領収書を添付し、申告書をご提出ください。

【お振込先】

寄附金専用口座

ゆうちょ銀行 01770-6-166454

(特非)日本セラピューティック・ケア協会

認定NPO法人

日本セラピューティック・ケア協会

〒818-0125 福岡県太宰府市五条2-6-1-202

TEL:092-928-1546

FAX:092-555-9401

E-mail:info@therapy-care.net

URL:<http://therapy-care.net>

セラピューティック・ケア協会

検索